

つーさん（大学生）の里海まんがづくり体験レポート

里海まんが舞台裏

平成26年8月21日

2014年3月。

香川県から、里海とは何かを伝えるまんが「里海ってなあに？」が発行されました。今回のレポートは、このまんがに作画で関わった、私こと「つーさん」が、完成までの舞台裏を紹介したいと思います！

「里海」という言葉を初めて知ったのは、2013年7月に香川大学のゼミで行われた「かがわ『里海』づくり プレ・里海ワークショップ in 香川大学」でのこと。このワークショップでは、「里海とは何か」から始まり、班に分かれてPRのためのキャッチコピーや、具体的な取り組みとして何ができるかを話し合いました。

里海まんがの案は、その話し合いの中で出たものでした。「小・中学校で里海の勉強ができたら良いのでは」という意見に対して、どうしたら子どもにより興味をもってもらえるだろうかと考えたとき、ぱっと思いついたのが、「まんが形式がいいのではないか」ということ。自分が環境教育を受けてきた中で、まんがやパンフレットから得た知識は頭に入りやすかったな、という実感があったのを思い出しました。そこで、私がデザインや絵に興味があることを、知っ

ていらっしやった教授が、「人が作るのを待つより、学生でまんがを作成したらいいんじゃない？」と後押ししてくださり、ストーリー担当・作画担当のゼミ生2人で県環境管理課の方と一緒に、まんがを作成することになったのでした。

それが、このまんがができるまでの初めの一歩です。

（←最初のラフ）

今回のまんがを描く中でぶつかった大きな壁…

…。

それは、描き手である私たちが「瀬戸内海の状況を理解しなければならぬ」ということでした。



つーさん（大学生）の里海まんがづくり体験レポート

るし、土にも栄養がなくなる。土砂崩れで川や海に濁った水が流れたりもする。」

私はこの意見を聞いて、「守る」ということはなんだろう、と思いました。手を加えること自体が人間が上に立つようで嫌だ、という人もいます。しかし私は、「まったく人間から切り離して成立する生態系」があるとする考えならば、そのほうが人間が特別視されているのではないかと思うのです。もう何万年も前から、人間も自然の中で暮らしてきました。そして科学技術の発展で壊してしまった環境がたくさんあります。だからこそ、これからは人間が“ヒト”として、自然の循環システムの一部として、持ちつ持たれつの適正な関わりを持つとすることが、重要になるのではないかな、と思ったのです。

それが、これから私たちがつくっていかねばならない「里山」、「里海」の姿なのではないか、と思います。